神奈川支部報

神奈川支部報　第　23 号
発行日：2022 年 10 月 1 日
発行者：込田伸夫
発行所：公益社団法人日本山岳会神奈川支部
横浜市青葉区若草台 2-58　込田方

丹沢周辺の渡来人の足跡（４）

和田誠一

さて丹沢の北西部は県境を挟んで山梨県・甲斐国。高句麗の滅亡前後に、高句麗人が大挙してわが国に亡命したが、甲斐国へも多数の高麗人が移り住んだものであろう。また百済人については平安時代初期に編まれた「日本後紀」によると延歴 18 年（799）、甲斐国の人止弥若虫（ﾄﾐﾉﾜｶﾑｼ）・久信耳鷹長ら 190 人の百済系帰化人が改姓を申請した。彼らの先祖は白村江の戦のあった天智 2 年（663）に日本へ亡命し、3 年後に甲斐に移されたものである。

また日本三奇橋の一つ、名勝猿橋にも百済人の話が伝わっている。深い峡谷に四層に重ねられた「翅木＝はねぎ」と呼ばれる支え木を追出して架橋したもので、江戸時代に編纂された「甲斐国志」（松平定能編）には「推古帝二十年、百済国ノ帰化人白癩有巧ミニ長橋ヲ掛ケ・・古人云ク以前ハビク島ト云ヒキ鳥沢ヨリ渡舟ニテ藤崎ノ地ニ移リ此ノ地ヲ往来セリ或ル時ニ猿断岸ノ藤蔓ヲ伝ヒ向ヒノ岸ニ到ルヲ見テ刱メテ橋ヲ作リシト云フ・・」とあり、また併設して建っている大月市教育委員会の説明看板には百済人の名前を志羅呼とも書かれている。

その猿橋の南、小沢川沿いに県道 509 号線を遡ったところにある幡野集落の山の上に八幡神社ある。「甲斐国志」に「・・大幡一旒空中ヨリ飛ビ来リ此ノ地ニ止マル依リテ神殿ヲ建立シ其ノ幡ヲ納メテ神躰トシ八幡宮トイハヒ奉ル因ツテ此ノ地ヲ幡野ト名ヅ・・(略)・・此ノ祠火災ニ遭ヘルニ其ノ幡自ラ飛ビ出テ相模国日向ノ薬師ニ止マルト云フ今日向ノ薬師ヲ尋ヌルニ然ル幡存セリ伝説亦此ノ地ト同ジ虫バミ敗レテ開キ展ブルコト能ハズ・・」とある。

（猿橋　大月市）

甲斐国志が編纂された 19 世紀初めの時代に、こんな山の中の神社の由来から、道志、丹沢山塊を越えた「相模の日向薬師」の名前が登場するとは・・・当時の文化交流の様子が窺える。「マル」の分布もその一つと云える。

また相模との国境にある都留郡は桓武天皇の延暦13年（794）、この地に織部司がおかれて以来、鎌倉・室町時代は市場取引が行われ、近世に入いってからは甲斐絹を中心とする機産業発祥の地として発展、最近まで羽織裏地の生産は全国に独占的な地位を占めていた。この地の機織りの技術も元々は山城（京都）太秦（うずまさ）の秦氏族（新羅系）がもたらしたものとみられている。

富士急行線・都留市駅より大幡川沿いに西へ 8 km。三方を山に囲まれ、鶴ケ鳥屋山の南麓にあたる所に織物の神様・機（はた）神社がある。渡来文化が栄えていた往時が偲ばれる地である。日本の中の朝鮮文化」（金達寿）の中で、この機神社のことを「・・元は秦神社といったかも知れない・・」とも書いてある。

このように当時の甲斐の国は高句麗、百済、新羅系渡来人の生活圏が複雑に入りくんでいた。　当時の都留郡には道志山塊も含まれ入道丸、岩下ノ丸、城ケ丸、マコゼンノ丸（御正体

山）などが連なり、「マル」が渡来人の生活圏と近いところに分布している。

池田光三著「山名考」によれば「マル」の分布は関東の一部と四国に限定されているとのこと。はたして四国にも香川県の新羅神社や新羅大明神、高知県には秦氏にまつわる秦神社があり、多数の渡来人の痕跡がある。何故限定した地域だけに分布しているのであろうか。興味が尽きないところである。（完）

（織物の神・機（はた）神社　都留市）

山岳古道プロジェクト報告（第５回）

山岳古道プロジェクト「大山をめぐる道」において大山参詣道が調査対象古道に加わったことは先に報告したとおりです。大山参詣道の踏査は今冬から実施する予定ですが、それに先立ち６月２１日、大山門前街を歩いてきました。伊勢原市観光協会志村専務理事に大山参詣道のお話を伺った後、伊勢原駅から大山ケーブル駅までご案内頂きました。江戸時代の名残がある門前街を巡ってきましたが、廃業した宿坊も少なからず見られました。一方、豆腐料理店への特化、新しいスウィーツの開発や関係者が協力し合って宿坊体験ツアーを企画したりして門前町の発展に向け頑張っている姿も見られました。

↑宿坊の玉垣

玉垣に囲まれた宿坊です。寺社ではない宿坊に玉垣があるのは全国でも珍しいといいます。

愛宕滝。大山参詣前に身を清めました。この他に良弁滝、禊の大滝等があります。

↑水垢離の愛宕滝

また、７月２７日（旧暦６月２７日）には大山夏山開きが行われました。江戸時代、旧暦６月２７日から７月１７日までの２０日間のみ石尊権現（大山山頂）への参詣が許され、この期間に参詣することが「大山詣り」といわれていました。この「大山詣り」は、２０１６年文化庁により日本遺産に認定されています。山開き当日は、あいにくの雨でしたが午前９時から関係者約３０人による開山の儀式が行われました。

下社本殿左側にある登拝門（大山登山口）は、普段右扉片開きですが、この扉を一旦閉じ、神事を執り行った後、日本橋「お花講」の人々の手によって両扉が開かれます。

↑両扉が閉じられた登拝門

この行事は元禄年間からお花講が行なっていたといいます。江戸時代中期、江戸の人口が１００万人の時代、この夏山期間に２０万人が参詣したいう記録があるほどの賑わいだったとのことです。この数字は令和３年度の大山登

頂者数が１年間で１３ 万人だったことからみても驚きの数字といえます。

↑両扉が開かれた登拝門

江戸下町の参詣者は、隅田川にかかる両国橋東端で水垢離を行い、翌朝白衣を着用、木太刀を担いで東海道あるいは矢倉沢往還（現在の国道２４６号）を通って伊勢原に向かいました。

↑両国橋端の水垢離場跡

次回からは再び山岳古道の踏査報告に戻ります。（記：葉上）

山行報告

小田原自然観察会

令和４年６月 19 日

今回の観察会は、小田原城北西部の歴史的遺構やその周辺部の植生を観察して歩きます。

箱根登山鉄道箱根板橋駅に集合し、観察会の開始です。国道１号線、旧東海道を渡り、日本最古の水道とされる早川用水沿いの道を松永記念館へと進みます。同記念館内にある老欅荘（電力の鬼と言われた松永安左エ門が晩年を過ごした居宅）内を案内人付きで見学し、老欅荘の謂れとなった樹齢約 400 年のケヤキ（欅）、池のスイレンなどを観察しました。

次は、隣接地の香林寺の境内に入り、結界門の両脇に設置の獅子と牡丹の石像（獅子身中の虫は、牡丹の花に結露した水でしか退治できないとの伝説）、十二支塔を見て回っていると、ナツツバキのまわりにモンキアケハが舞っていて、その先にはムベ（ムベとアケビの違いを説明）が実を付けていました。

ここからは、標高差約 110mの坂道を登ります。坂の上に出て、振り返ると真鶴半島やうっすらと伊豆大島が見えました。さらに歩を進めると、小峰御鐘ノ台大堀切東堀いわゆる総構に出ます。総構とは、城とその城下を堀や土塁で囲った要塞のことです。幅約 20～30m、深さ約 12m、堀の角度 50～60 度と急勾配の空堀になっています。小田原城の総構は、総延長 9Km に及んだとのことです。この空堀を抜けると城山公園につきます。正面に小田原城を遠望し、ここで昼食となりました。

昼食後、小田原高校南側の自然林の脇道を進みます。この自然林内には、シラカシ、クスノキ、ヤマモモ、ヤブツバキなどの照葉樹林やムクノキ、ミズキ、ケヤキ、クロマツ、スギなどの落葉広葉樹や針葉樹が混生しています。自然林内には入れず、フェンス越しの観察となりました。坂道を下っていきますと、小田原城内に入ります。

木、石、銅でできた三種類の鳥居をくぐり二宮神社に入ります。神社にお詣りの前に、ナギの木を観察しました。ナギは広葉樹のような葉型をした針葉樹で、ナギが凪に通じることから海運のご神木、葉が縦に引っ張っても切れないことから縁結び・夫婦円満のお守りにされます。お詣り後、いよいよ小田原城内に入ります。関東大震災による石垣の崩れはいまだにそのままになっています。バクチノキ（ビランジュ）、各種類かの花ショウブ、天然記念物のイヌマキ、白い大きな花を付けたタイサンボク、お堀の石垣に着生するマツバランを観察して、本日最後の観察ポイント

の小田原城外にある三の丸土塁の一部を見て、本日の観察会は終了となりました。

（行程）箱根板橋 9：56－早川用水－松永記念館・老欅荘 10：15～11：05－香林寺 11：05～11：20－（坂道標高差約 110m）－総構（小峰御鐘ノ台大堀切東堀）11：35－城山公園（昼食）11：50～12：20－小田原高校周辺の自然林－二宮神社 13：00－小田原城内経由 13：10～13：40－小田原城外三の丸土塁 13：50－小田原駅解散 14：10

（参加者）森武昭、打矢之威、堀江精三郎、藤川智恵子、込田伸夫、関口由美子、國清喜美子、小林英世、渡邊正敏の計 9 名（渡邊正敏　記）

↑松永記念館正門

かながわ山岳誌 H コース

小倉山（調査山行）

令和 4 年 6 月 18 日

＜コース概要＞JR 橋本駅（バス）＝湘南小学校前 BS～国有林道入口～小倉山～国有林道入口＝JR 橋本駅（バス）　（歩行時間 3 時間 31 分）

橋本駅南口から田名バスターミナル行のバスに乗り、湘南小学校前 BS で下車。相模川右岸の県道大井上依知線を南東に歩くと、右側に小倉山国有林専用林道のゲートがあらわれる。「山火事から森を守ろう」（相模原市消防局・消防団　城 1）の案内板が立つゲートを超えると、林道がクネクネと続く。梅雨シーズンで、湿った未舗装路を歩くが、やがて下りとなり、のどかな小川が流れた場所に来る。すでに 1 時間 15 分も歩いているのに、小倉山の入り口が見当たらない。地図で確認していると登山靴にヤマビルが数匹ついている。実は、小倉山入口を通り過ぎていた。きた道を引き返し、やっと小倉山入口に取付いた。急斜面を登るとやがて杭が立ち、水色の鉄線の先に「立ち入り禁止」（これより先は砕石場入口となります。危険ですので立ち入らないでください。小川工業株式会社）の看板が立つ。前方は禿山の頂上が続き土がむき出しの状態だ。本来の小倉山は既に崩されていた。が、右側の小高い場所に「小倉山」の手製標識がかかり、ここに付け替えられている。仕方なくここを小倉山と認識した。林道を下り県道に出て、バスで橋本駅に戻った。

田島剛記　　＜参加者＞　森武昭、永井泰樹、渡辺正敏、田島剛

↑小倉山山頂

かながわ山岳誌 H コース

榛の木丸

＜コース概略＞釜立沢林道ゲート～<釜立沢左岸尾根>～八丁坂ノ頭分岐点～)榛ノ木丸分岐点～榛ノ木丸(1312m)～榛ノ木丸(1292m)～09)榛ノ木丸(1312m)～)榛ノ木丸分岐点～八丁坂ノ頭分岐点～<釜立沢左岸尾根>～釜立沢林道ゲート

釜立沢林道ゲート手前に車を駐車し、8:19、林道歩きをスタート。13 分後、林道を離れ、釜立沢左岸尾根の登山道に入っていく。植林帯の登りとなり、すぐヤマビルゾーンに突入する。案の定、約 20 分の登りで、足下だけでヤマビル 11 匹を発見。その後、標高が上がることでヤマビルを見かけなくなった。

尾根登りが続いた後、八丁坂ノ頭分岐に到

着。ようやく東海自然歩道の稜線に合流した。ここからは、南東の丹沢三峰方面の景色が広がる筈だったが、残念ながら今日はガスに覆われ、全く眺めることが出来なかった。その後、姫次方面に進み、20 分弱で自然歩道から左折し、支尾根に入る。ここから先は、バリエーションルートだ。最初は、踏跡があったのだが、そのうち植林帯の中で見失う。あまりの静寂さに気味が悪く、ストックと熊鈴を取り出す。その後、幅広の尾根となった所で、GPS にて進路方向を確認。やがて周囲は、自然林となり、ガスに囲まれ、遠景は、樹林の間からも全く見えないが、尾根が細くなり、進路方向は、はっきりしてきた。

11:32、榛ノ木丸(1312m 峰)に到着。ここは、ブナ等の自然林に囲まれた静かな山頂で、辺りは、全く人の手が入っていない、本来の丹沢の姿だ。その後、1292m 峰に向かう。榛ノ木丸は、1312m 峰を指す場合と 1292m 峰を指す場合があるからだ。11:52、1292m 峰に到着。こちらは、低木樹林帯の中のピークとなり、どこがピークか良く分からない。このあたりがピークかなと樹林帯のピークを撮影後、再び 1312m 峰に戻った。

↑榛ノ木丸頂上(1292m 峰)あたりにて

1312m 峰で昼食をとるつもりだったが、風が殆どないためか、飛び回る虫が多く、来た道を引き返し、途中の鞍部で昼食とした。

その後も来た道を引き返し、釜立沢林道ゲートに 15:05、無事戻ってきた。(永井泰樹記)

＜参加者＞　小林英世、永井泰樹コース概要

かながわ山岳誌 H コース

甲相国境尾根

令和 4 年 9 月 3 日

＜コース概要＞JR 御殿場線山北駅＝（車）道志の森キャンプ場～城ヶ尾峠～城ヶ尾山～中ノ丸～ブナ沢ノ頭～菰釣避難小屋～菰釣山～ブナノ丸～油沢ノ頭～樅ノ木沢の頭～西沢ノ頭～石保土山～山伏峠＝（車）山北駅　（歩行時間 6 時間 36 分）

甲相国境尾根は神奈川県北西部と山梨県南東部の県境に位置し、アップダウンはあるものの、比較的平坦な長い尾根である。天気が良いと富士山や丹沢山塊、相模湾が見通せる。山北駅から道志の森キャンプ場落合橋まで、サポート要員の森様の車で移動。落合橋から歩行を開始し、サガセ東沢に沿って城ヶ尾登山口まで林道を進む。急斜面の登山道に入り、崩落した沢をトラバースすると城ヶ峠のベンチが見える。ここから、長い甲相国境尾根を西へ歩き高指山を目指す。城ヶ峠から城ヶ尾山はすぐだ。山頂の三角点を確認し静かなブナ林を歩く。比較的平坦な尾根だが、アップダウンが多い。中ノ丸を過ぎ、ブナ沢乗越に来るとその先に、菰釣避難小屋があらわれる。小屋で昼食をとり、菰釣山への登りを行くと菰釣山の頂上は霧の中だ。晴れていれば富士山と山中湖が望める。山頂で一人の登山者に会ったが、その後一切人に会わなかった。

山頂を北に下り小ピークを登り返す。いくつかアップダウンを進み、ブナノ丸、油沢ノ頭、樅ノ木沢の頭、西沢ノ頭を通過する。標高 1，300m 程度の長い尾根で変化に欠けるが、静かなブナ林が続き、新緑や紅葉が美しいであろう。やっと石保土山に到着した。平坦な尾根に大きな石が積み木のように置かれている。だいぶ疲れてきたので、このまま高指山へ行くのは断念して、山伏峠に下ることにした。大棚ノ頭分岐を北に進み、国道 413 号線に下り、サポート要員の森様の車で山北駅に移動して、山行を終了した。田島剛記

森様、ありがとうございました。

＜参加者＞永井泰樹、中島良行、田島剛、＜

サポート要員＞森武昭

↑石保土山山頂

山菜採り山行　妙高高原・一夜山

令和４年６月 25 日～26 日

＜コース概要＞（6/25）　上越妙高駅集合＝蕎麦屋「文座」（車）＝万坂峠（車）～斑尾山北東斜面（スキー場）～万坂峠＝笹ヶ峰グリーンハウス駐車場（車）～清水ヶ丘周遊～駐車場＝赤倉ユアーズイン（車）宿泊

（6/26）　赤倉ユアーズイン＝戸隠中社（車）＝大望峠（車）＝ゲート駐車場～一夜山～駐車場＝鬼無里（昼食）＝長野駅（車）

神奈川支部の小笠原様が経営する赤倉ユアーズインを拠点にして、山菜（ワラビ、タラの芽）取りをメインに妙高高原散策と一夜山登山を行った。

初日は、各自北陸新幹線の上越妙高駅に集合し、小笠原様の車で地元の有名な蕎麦屋「文座」でボリューム満点の美味しいそばを食べ、斑尾山に移動。日当たりの良いスキー場の斜面で山菜（ワラビ、タラの芽）取りを行った。小笠原様からワラビの見分け方や取り方を教えてもらい、各自山菜取りに夢中になった。多くのワラビを取った者もいて満足顔であった。その後、妙高高原の笹ヶ峰に移動し、清水ヶ丘周遊を行いながらタラの芽を採取した。時期的に山菜取りの終盤に当たり、既においしい芽は取られた後であった。

宿泊先の赤倉ユアーズインに到着し、天然温泉に入り、名物の美味しいお料理とワインやお酒で歓談し、気が付けば翌日になっていた。

翌日は、車で一夜山や戸隠山がまじかに見える「大望峠」で展望を堪能し、一夜山登山を行った。ゲートから山頂までは、70 分程度で山頂から 360 度の展望は素晴らしく、北アルプス、浅間山などが見えた。山頂で、ワラビ採取もできた。車に戻り、鬼無里に立ち寄り、有名な「いろは堂」で数種類のおやきをお土産に買い、昼食を取り長野駅で散会となった。

小笠原様、車の運転と赤倉ユアーズインの提供ありがとうございました。（田島剛　記）

↑支部サテライト赤倉ユアーズインにて

計画当初は梅雨の時期なので雨天を心配したが、実施２日前から猛暑となり暑さを心配した。しかし、現地では集合と解散の地点では厳しい暑さだったが、山行中は 1，000mを超える標高のためか、それほどの暑さは感じず、若干蒸し暑い程度であった。今年は雪解けが早く、山菜取りのシーズンはすでに過ぎており、残り物を取る感じであった。それでも夕食には天ぷらで十分賞味できたし、各自自宅に持ち帰るにはそれなりの量を確保できた。

＜幹事＞森武昭記

↑一夜山にて

＜参加者＞小笠原辰夫、森武昭、東山一勇気、

東山佐紀子（非会員）、高井延幸、國清喜美子、大字進、辻橋明子（非支部員）、田島剛

役員会報告

7 月役員会

日時：令和 4 年 7 月 21 日（木）：19:00～20:15
場所：かながわ県民センター７０８会議室
出席者：込田支部長、永井事務局長、田島、中島、柴山。オンライン：早川、大槻、森、落合、渡辺、葉上、玉木、出江
監事：砂田
委任状による出席：長島、廣岡、田中、青木

［報告事項］

（１）会員の異動
退会：12317 成瀬ヒサ

（２）連絡事項
・県岳連主催の「かながわ山の日 in はだの 2022」の行事の一つとして実施されるフォトロゲインに、込田・長島・田島の３名が参加することになった。

（２）山行報告
・6/18 に山岳誌プロジェクトＨコース小倉山実施。参加者は４名。
・7/4 に山岳誌プロジェクトＨコース大界木山の山行は雨天のため中止。
・7/9 に山岳誌プロジェクトＨコースと榛ノ木丸実施。参加者 2 名。
・6/19 に小田原自然観察会実施。参加者は９名。
・６/25・26 に妙高の新赤倉温泉の支部サテライトを利用して、斑尾高原と一夜山のハイキングと山菜取りを実施。参加者は９名

（２）その他
・落合より、神奈川大学が来年３月に実施予定であったピザンピーク登山とアンナプルナサーキット周遊トレッキングは積雪状況が厳しいとの現地からの情報が入り再検討することになった旨の説明があった。新たな案が決まり次第、支部会員に周知し、参加希望を募ることにした。
・来年 7/1・7/2 に青森県八戸市で開催予定の第 36 回東北・北海道地区集会の案内があった。

［審議事項］

（１）年間計画
・今年度下期の予定を確認した。

（２）山行計画
・9/3 に山岳誌プロジェクトＨコースとして、御殿場駅＝(バス)＝旭日丘 BS＝(タクシー)＝道の駅どうしの先の落合橋～城ヶ尾峠～ブナ沢乗越～菰釣山～石保土山～大棚ノ頭下～高指山～平野＝(タクシー)＝旭日丘＝(バス)＝御殿場駅を実施予定。
・9/22・23 に山岳誌プロジェクトＨコースとして、1 日目：渋沢駅＝（タクシー）＝県民の森～二俣～後沢乗越～鍋割山～熊木沢出合（昼食）～弁当沢ノ頭～棚沢ノ頭～不動ノ峰～棚沢ノ頭～蛭ヶ岳（泊）、2 日目：蛭ヶ岳～臼ヶ岳～金山谷ノ頭～金山谷乗越～檜洞丸～熊笹ノ頭～大コウゲ～犬越路林道分岐点～犬越路林道～西丹沢 VC を実施予定。
・9/24 に自然観察会として、秦野駅～-弘法の清水～今泉湧水池～八坂神社～曽屋水道記念公園～曽屋神社～葛葉緑地～-秦野駅を実施予定。

（３）その他
・葉上より、山岳古道プロジェクトの活動報告と今後の予定についての説明があった。
・永井より、支部報第 22 号を近く発信する旨の報告があった。
・かながわ山岳誌プロジェクトの後継企画として、中島から城跡ハイキングと永井から関東ふれあいの道についての提案説明があった。新たな提案募集を含めた今後の取り扱いについて審議した。

9 月役員会

日時：令和 4 年 9 月 151 日（木）：19:00～20:40
場所：かながわ県民センター７０８会議室
出席者：込田支部長、永井事務局長、中島、柴山、長島。オンライン：早川、森、葉上、落合、渡辺、出江。監事：砂田

委任状による出席：大槻、青木、廣岡、田島、玉木

［報告事項］

（１）会員の異動

・退会：15688 多田友行

・退会手続中：9344 細井澄子

（２）連絡事項

・年次晩餐会：12/3 新宿京王プラザホテルで開催予定。ただし展示会は無しで講演と晩餐会のみ。

（３）山行報告

・9/3 に山岳誌プロジェクトＨコース甲相国境尾根を実施。参加者は３名+サポート１名。

（４）その他

・県岳連主催の『かながわ「山の日」in HADANO 2022』が 8/6 に実施。込田・長島・田島がスタッフとして参加。

［審議事項］

（１）年間計画

・下期の計画を確認した。

・２月下旬頃実施のスキー・スノーシュの幹事を次回決定することに。

（２）山行計画

・9/22・23 に山岳誌プロジェクトＨコース（7 月役員会参照）

・10/8 に山岳誌プロジェクトＬコース、明神平 BS～碓氷峠登山口～日本武尊碑～碓氷峠～宮城野林道起終点～足柄幹線林道起終点～俵石 BS を実施予定。なお、時間的に余裕があれば希望者で追加調査として俵石 BS～小塚入口～小塚～小塚山～小塚入口 BS も実施予定

・10/15 に山岳誌プロジェクトＨコース、落合橋～城ヶ尾峠～大界木山～モロクボ沢ノ頭～バン木ノ頭～水晶沢ノ頭～白石峠～道志分岐点～白石峠～用木沢出合～西丹沢ビジターセンターBS を実施予定。

・9/24 に自然観察会、(7 月役員会参照)。

（３）その他

・県岳連主催県民登山：11/6 に実施予定。山行は大倉～三ノ塔～二ノ塔～大倉で行う。協力依頼あり。

・支部交付金：今年度の支部交付金に関して、当支部は 238,000 円。

・長島より、次回の支部報発行予定について説明があった。次々回以降の企画原稿について意見交換した。

・晩餐会山行への協力：本部山行委員会から協力要請あり。実施体制と役割分担の確認が必要。山行コースに関しては多くの意見が出された。

・山岳古道プロジェクト：葉上より、活動報告（９月分）と今後の予定についての説明があった。

・次期プロジェクト：来年度から実施できるように今後の工程表を次回審議。

あとがき

今年の夏は、オミクロン株の蔓延に加え猛暑が続いた一方、豪雨による甚大な被害も出た。世界中の異常気象はジェット気流の変化によるものらしいが、この原因は北極圏の温暖化だという学者も多い。こんな夏だったが、東山一勇気会員の切り絵展に伺った。おかげで、すがすがしい気持ちで夏の終わりを迎えることができた。これからいよいよ紅葉シーズンが到来する。山の恵もこれからだ。元気よく山に出かけたいものだ。（は）

発　行：日本山岳会神奈川支部　支部長：込田伸夫
編集者：田島剛、永井泰樹、長島泰博、葉上徹郎
令和４年 10 月１日